

令和6年度 第3回三条市こども未来委員会会議録	
日 時	令和6年10月18日（金）午後1時30分～3時10分
場 所	三条市役所栄庁舎3階 大会議室
出席者	出席委員：真壁委員長、佐藤副委員長、栗山委員、与斉委員、福田委員、近藤委員、宮島委員、森山委員、石塚委員、金子委員 欠席委員：山村委員、山田委員、山崎委員、工藤委員、高橋委員 事務局：平岡教育部長、小林子育て支援課長、小林課長補佐、相場子ども家庭サポートセンター長、五十嵐子育て支援係長、草野幼児・児童係長、飯田総合支援係長、石田主任 傍聴者：なし 報道機関：株式会社三條新聞社
委 員 会 内 容	
	【次第】 1 開 会 午後1時30分開会 2 あいさつ 平岡教育部長から挨拶 3 議 事 第3期すまいる子ども・若者プラン策定に係る問題意識の考え方について （小林課長） 第3期すまいる子ども・若者プラン策定に係る問題意識の考え方について（第2章まで）説明 【質疑】
佐藤委員	出産や子育てについて、里帰り出産の状況や子育てを行う場所、自宅を建築する際の子どもの年齢、転居先の地域などのデータはあるか。
小林課長	里帰り出産については、令和5年度は約90件。これから集計する地区別の子どもの数の推移をみると見えてくるものがあるかもしれないが、今のところ転居先などの回答を持ち合わせていない。 子育ての場所として0歳児は3～4割、1・2歳児は約8割が保育所に入所している。一昔前は3～5歳の3年間、幼稚園や保育所を利用と言われていたが、現在では0～5歳の6年間、幼稚園や保育所を利用するケースが増えてきている。
石塚委員	資料23ページで世帯収入により子どもの体験格差があると記載してあるが、三条市で世帯収入600万円以上の世帯の職種は。
小林課長	資料21ページに三条市の令和6年度児童手当受給世帯の子育て家庭の所得額の分布を記載したが、職種の調査は行っていない。資料23ページは「収入」、資料21ページは「所得」なので御注意願いたい。
与斉委員	資料16ページの青少年相談について。相談を受ける方の職種は。
小林課長	専門職として公認心理士、社会福祉士が相談を受けている。

	(小林課長) 第3期すまいる子ども・若者プラン策定に係る問題意識の考え方について(資料28 ページ第3章から)説明 【質疑】
宮島委員	プランを作成するにあたり直接関係はないが、資料23 ページに所得の低い家庭のお子さんが体験活動に参加できない率が高いという結果があった。青少年育成センターがウィンターキャンプなど、子ども向けのイベントを実施しているが、参加費を安くしてはどうか。
小林課長	御意見として、今後の参考にさせていただく。
真壁委員長	目標値は、以前と比較するために変えてはいけないのか。 「子育てを負担と感じている人の割合を下げる」と記載されているが、子育ては負担だと思う。負担をどう捉えるかだと思う。「すごく嫌なこと」と捉えていたら問題だと思うが、子育ては多かれ少なかれ負担はある。一方で「子育ては楽しい」と思えばそれでよい。文言の修正は行わない予定か。
小林課長	子育ては少なからず負担があるものと認識している。それを楽しめるかどうかというのは非常に大切な視点だと思う。「子育てが楽しい」という現状値を持ち合わせておらず比較できる数字がないため、この指標としたが、御指摘いただいたので、今後検討させていただく。
金子委員	今までの子育てに関するアンケートでどの位父親と一緒に考えて回答しているのかが気になる。核家族化が進んでいて、母親が働くためには、必ず父親の手が必要になる。社会が大きく変化しているが、今までどおり子育ては母親中心と考えていると感じる場面がたくさんある。その考え方で物事を進めていると今までの悪循環が止まらないのではないか。子育てに不安を感じる63.3%は、恐らく母親の回答で、その不安な母親に育てられている子どもたちが将来子どもを育てたいと思うかなと思う。55%を目標値に掲げるのではなく、変えていこうとする何かが必要ではないかと思う。 離婚、貧困、少子化、虐待についても、子どもを持とうとする夫婦、若しくはその前からこれらのことを予防する学びを伝えることはできると思う。男性も女性も人との関わりが減っている昨今、赤ちゃんを見る、触れる、感じるができないままに子育てをする人が増えている。子育てを学ぶ時代がきていると思う。 赤ちゃんが生まれてから「こんなに大変だったのか」と困るのではなく、赤ちゃんが生まれる前に「こんなことが起きるかもしれないよ」を伝えて、その時点で男性と女性で一緒に子育てをしてくという意識に少しでも近づき、子育ての中で不安なことがあっても一旦2人で話し合うというベースがあれば、不安ももめ事も今よりはよい状況になると思っている。 現在、妊娠期の方たちを集めて月に1度講座を行っている。その講座の

	中で妊娠している方同士で話しをしてもらっていて、そこをコミュニティとしていくことで妊娠期から一緒に不安を解消することができればいいなと思っている。そこに父親も加わることで妊娠期から、一緒に子育てをしていってくれるように、困る前の予防がないとダメではないかと思う。今、父親にアンケートを取ったら子育てを不安に思ったり、負担に思っている人はすごく少ないと思う。なぜならば自分が子育ての中心ではないから。母親と同じように不安や負担に思っ話合えるベースを少しでも作ることができれば、離婚や貧困が減るし、子育てっていいなと子どもたちが思える循環ができていかないと少子化は止まらないのではないかとと思う。 離婚数が減っているというデータがあったが、子どもが保育園に入所するまでの離婚の件数、熟年離婚の件数など離婚をする時期の件数の推移のデータがあると、分かることがあるかもしれない。また、性に対する考え方は、これから親になるための心持ちに大きく関わってくるので、子どもたちへの性教育は大切だと思っている。早い時期の妊娠や出産を少しでも止められたら親としての役割を果たす責任感も違ってくると思うので、是非、考えていただきたい。
平岡部長	様々な御意見をいただいたが、参考にさせていただくところ、今回は手が及ばないところがある。冒頭、御意見いただいた男女共同参画の視点や保護者の家庭教育については、今までのプランでは、社会や地域が子育て家庭を助けていきましょう、見守っていきましょうというプラスの温かい記述だったが、今回は資料 29 ページの一番下の段落にもあるとおり「保護者が第一義的責任を負うという認識の下」と踏み込んで書かせていただいた。保護者は家庭教育にも、子育てにも、父親母親問わず関わっていくことが大切という認識の下で記載させていただいた。金子委員から御指摘があった箇所については、更に踏み込んで記載させていただければと思っている。資料に出しておきながら、次回訂正をお願いするかもしれない箇所があるかもしれない。資料 33 ページ、「Ⅱ子育て当事者への支援」の大項目 2 番、「子育て家庭への支援の充実」(4) 家庭の教育力の向上、(5) 男性・女性を問わない家事・子育て参加の促進については、金子委員御指摘の意見を踏まえ、「Ⅲ地域の機運の醸成」の 3 番目の施策に入ってくるのかかもしれないと思っている。
小林課長	先ほど「子育ての楽しさ」を表す数値がないと申し上げたが前回のプランの中に「子育てを幸せに感じる人の割合」を指標として設けていた。今回のプランの指標で、どちらがいいのかということも含めて検討する。
栗山委員	前回のプランも今回(資料 7 ページ)も「保育が充実していると思う」人の割合が低い。具体的に何を求めているのかが気になる。現場の者としては、子どもを中心にまた保護者やその保護者の背景により、一人一人に対応している。また、職員にも子育て世代の者がいるので、その職員が保護者に自分の経験を伝えたり、保護者と共感できることが大切だと思っている。産休、育休明けの職員が時短勤務を希望すれば時短勤務してもらい長く勤務できるように工夫させてもらっている。現場としては一生懸命さ

	せてもらっているのに、なぜ、この数字がこんなに低いのか。
小林課長	就学前、学童期分けてアンケートを取り、全体の平均が 35.5%である。就学前の割合が低く、育休明けの保育所への入所は、1 歳になっても 0 歳児で入所となり、育休を延長し次の 4 月に入所してもらうケースが多く、その間の保育の負担も 1 つの要因ではないかと思う。
近藤委員	生後 1 か月の赤ちゃんを連れた夫婦が、3 連休毎日拠点施設に遊びに来てくれた。父親も母親も「抱っこの仕方が分からない。泣いてばかりいて困る。」と言っていた。核家族化が進んでいるというのもあるが、現場にいて、里帰り出産をしない夫婦が増え、分からない者同士が頑張っているなど感じている。抱っこの仕方やあやし方を誰も教えてくれない。産院では赤ちゃんのお世話の仕方や授乳のことは教えてくれるが、こんなに大変だったなんて誰も教えてくれないという感じで 3 日間通ってきてくれた。男女問わず、自分の子どもを持つまでに、幼い子どもと触れ合う機会がないことと、三条市は産前学級を行っていないので、知識がないままに親になったんだなという家庭を多く見る。資料にも「父親が家事や子育てを実践しているかどうか」の記載があるが、これが父親と母親では結果が全く違ってくると思う。確かにゴミ出しをしているのは父親だが、その前のゴミを集めて分別までは母親がやっているというのはよく聞く。健診等でアンケートを取ったと記載してあるが、健診に来るのはほとんど母親。父親にもアンケートを取ることができるというのと思うのと、夫婦の考え方のずれが早い時期の離婚につながっているのかなと思う。初ママ教室があるなら初パパ教室など父親向けの講座ができることを期待している。一時預かりについても、三条市は高齢の方が預かっているということで、一時保育より 3 倍近いお金を払って市外のベビーシッターを頼んでいるママがいる。また、見附市（企業主導型保育事業）で子育て支援員を活用した「手ぶら保育」を実施しているところもある。保育園で使用したエプロンや着替え、お布団を子育て支援員が洗濯してくれてるので、保護者は自宅に帰ってから子どもとゆっくり過ごすことができる。ベビーシッターや子育て支援員を上手く使う制度があると若い方もその仕事をしようかなと思えるのかなと思う。今、ファミリーサポート養成会員の講座を受けても、安定した仕事がないと別のところに流れてしまう。例えば、子育て支援員がパートで保育園に入るといった仕組みがあるといいのかなと思う。
福田委員	行政としてどのように関わって目標値を上げればいいのか具体的なイメージが湧かない。学校では子どもたちの心身の成長や放課後の過ごし方、生活習慣を見直そうと指導はしている。下田地区の子どもは放課後は友達と虫を捕まえたり、習い事に行ったりしている。行政の取組と子どもたちの実態の何がリンクして数値がよくなっていくのかがイメージできない。 地域の方が子どもの見守りをやってくださっていて、地域で子どもを育てる地域がある。子どもたちがそんな大人の姿を見て憧れるところがあると思うので、行政が地域と連絡を取りながらやっていけばいいと思う。

森山委員	委員長がおっしゃったが、資料 31 ページの成果指標について「子育てを幸せに感じている人の割合」等ポジティブなものも入ってくるのか。
小林課長	前は 9 つの成果指標とした。今回はここに掲載している 5 つの指標で進めていこうと思っている。指標について御意見をいただいたので、今後検討を進めていこうと思っている。
森山委員	自分自身も子育て真っ只中。子育てに幸せを感じてはいるが、不安や負担もある。この 2 つの指標だとネガティブなイメージが先行する。ポジティブなイメージのものもないと負のイメージになってしまう。また、資料 18 ページに記載してある子育てに不安を感じている人の意見をみると 1 位が経済的な不安・負担。今の社会情勢の中で子育てをしようがしまいが、誰もが経済的な不安・負担を感じている。アンケートの結果が、子育てが直接的な要因になっての経済的な不安・負担なのか、今の経済情勢による経済的な不安・負担なのか気になる。また、子どもの言葉や行動など知的・精神的な発育に関して不安を感じるといった項目が上位にきているというのは、そこに対する施策が必要なのだと思う。
宮島委員	資料 33 ページの小項目。「男性・女性を問わない」とあるが、この文言は適切か。言い換えなければならないのではないか。
平岡部長	男性・女性という文言は例えば「家庭内で協力し合う」などに言い換えることでいかがか。 福田委員からの放課後の子どもたちの育成について具体的に何をすればいいのかイメージが湧かないという御意見に対してであるが、基本的に、こちらは新しい画期的なことを始めるということは、持ち合わせていない。更に言えば、こうしたことは、今までも活動として行ってきた経緯もある。宮島委員から御紹介いただいた青少年育成センターのウィンターキャンプも 1 つの重要な取組、福田委員から御紹介のあった、下田の子どもは友達と示し合わせ虫捕りに行くというのも 1 つの体験機会である。そこに視点をおいて、重要性を説いたのは今までなかった。子どもたちが、様々な体験に対し、参加費が高くて行けない、部活でサッカーをやりたいが道具を揃えるのにお金がかかるからできないなどということがないとは言いきれない。今回のプランでは、子どもたちの視点で体験機会の創出ということをしつかりと考えたい。 子育ては負担に違いないし不安がある、これはそのとおりだと認識している。ただ、負担や不安が高い数字であることはよくないことと認識している。負担や不安を感じている方が重い、軽いは別にしてこの数字が下がっていくことは我々の使命であると考えこの指標にさせてもらった。併せて、指標に対してネガティブな印象を受けるとの御指摘があったが、そのとおりとも思うので、今後検討していこうと思う。
佐藤委員	資料 31 ページの現状値と目標値についてだが、三条市独自かそれとも他市町村と比較したものか。

小林課長	アンケート結果を基に試算した三条市独自の指標。
真壁委員長	事務局からその他として何かあれば、お願いしたい。
小林課長	皆様からいただいた御意見を参考に、検討を進めていく。 次回は11月8日（金）の予定であったが、11月25日（月）午後1時30分からに変更し開催させていただきたい。第3期すまいる子ども・若者プランの素案の提示、意見集約をさせていただく予定。また、お気付きの点があったらいつでも教えてほしい。 （午後3時10分閉会）